

みなさまこんにちは、町田市立図書館です。
メールマガジンを配信します。

図書館職員おすすめ本

『リミット』

B913.6-ノ/野沢尚/講談社/2001年

子どもが誘拐され、一億円の身代金を要求される事件が発生する。

捜査一課の刑事・公子は、被害者である母親のケアに心を尽くしていた。ところがある日、犯人から「公子自身の、たった一人の息子を誘拐した」という連絡が入る。直後に送り付けられたのは、子どもの小指だった。この小指は、いったい誰のものなのか……。

孤独な母親として、公子はひとりきりの闘いに身を投じていく。一気に読み必至の小説だが、思っていた以上に甘さはなく、タイの児童人身売買という重いテーマにも踏み込む。その点で、梁石日『闇の子供たち』を想起させる作品でもある。興味をお持ちの方はこちらもおすすめ。全く救いがない話だが……。

『あけるな』

Jエ/谷川俊太郎・作 安野光雅・絵/ブッキング/2006年

頑丈に閉ざされた扉。扉に打ち付けられた板には大きく「あけるな」の文字。

目の前にこんな扉があったら、あなたは どうしますか？

私は、きっとあけてみると思います。

ダメと言われることほど、やってみたくなる。気になってしまう。そんな人も多いのではないのでしょうか。

詩人の谷川俊太郎と画家の安野光雅による、少し怖くてときどきするような、美しくて目が離せなくなるような、そんな世界が魅力的な1冊です。

あけてはいけない扉の先には何があるのか、ぜひ本をあけて自分の目で確かめてみてください。

（さる・びあんこのおともだち）

『キックス』

913.6-ア/天沢時生/集英社/2026

滋賀県で贋作のスニーカーを売り捌く不良の話。表紙からそんな風に想像してページをめくると、読者は神曲のダンテさながらあちこち連れていかれ、様々なものを目にする。

都内の繁華街と高級住宅地、現在の滋賀と戦時下の滋賀、琵琶湖にフェスにコロラド州、暴力団とギャングと滋賀を統べる者がいるかと思えば、空を飛ばたい人もいる。スニーカーと資本主義があって、世界的インフルエンサーと西川貴教もいて、もう戻れない美しい日々が胸を焦がす。

多種多様な素材をまとめ上げた作者の力量と文章のうまさに脱帽の一作。地上の地獄巡りを読み終えた後、「こんな境地に置き去りにされて自分はいったいどうしたら……でも最高ッ」ってなりました。
(ぴよちゃん)

=====

町田市立図書館

ホームページ：<https://www.library-machida.tokyo.jp/>

X：https://x.com/machida_library

◆メールマガジンのバックナンバーは、町田市立図書館ホームページからご覧いただけます。

◆メールマガジンの配信停止、メールアドレスの変更等は、町田市立図書館のホームページからお手続きください。

=====

2026 年 10 月 15 日発行